100億宣言

富山達観建設株式会社（総合建設業）

富山達観建設株式会社



本社社屋（富山県魚津市）

〇本社所在地：富山県魚津市
〇事業概要：道路・河川・護岸などの総合土木工事業、解体工事業
〇常時使用する従業員：33名
（2026年9月時点）
〇現在の売上高：10億円
（2025年10月期）
〇法人番号：3230001017505
〇Web：https://toyama-takkan.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
広瀬　達哉

「地域の未来」を創り、若者が誇れる建設業へ

当社は「好奇心・自己成長・信頼」を理念に掲げ、社員が自ら考え、自らルールをつくり、自ら成長する会社をつくってきました。地域の社会インフラを整備し、県民の暮らしと安全を将来にわたって支え続けることが私たちの使命です。売上高100億円は、その使命を果たし続けるための手段です。若い仲間に第三次産業に負けない賃金と誇りある仕事を渡し、2035年には従業員270名・売上高100億円の企業グループとして、富山から北陸・中部の社会インフラを支える存在になります。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2035年に売上高100億円を達成する。
・2025年10月期の売上高10.5億円から、年平均約25%の成長を目指す。
・2035年の内訳は、総合土木工事40億円、解体工事20億円、県外拠点・M&Aによる展開40億円とする。
・従業員数は33名から270名へ拡大する。

課題

・土木単一事業・県東部中心という構造からの脱却（第二・第三の柱づくり）
・外注比率の高さ（外注加工費が売上高の約5割）による付加価値の社外流出
・年間20～30名の採用と、現場代理人・幹部候補の計画的な育成
・多拠点・グループ経営を支える原価・品質・安全の管理基盤の構築

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

・解体工事業の本格立ち上げ（2026年4月参入）。経験者採用と重機投資により2035年に20億円規模へ育てる。
・ICT施工と施工管理DXの全面展開により自社施工能力を高め、外注依存を下げて付加価値を内製化する。
・2027年に本社を富山市へ移転して県内シェアを拡大し、2029年から石川・福井・岐阜・愛知へ拠点を展開する。
・売上高10億円規模の土木・解体業者のM&Aにより、2035年までに複数社をグループ化する。

実施体制

・若手6名のリーダー会議が自らルールと目標をつくる小集団運営を、全社・全拠点へ展開する。
・全社利益に連動した賞与配分と基本給の上乗せにより、30代で年収1,000万円を実現できる処遇体系を整える。
・現場代理人・拠点長候補を計画的に育成し、年間20～30名の採用を継続する。
・M&A・拠点展開を担う経営管理部門を新設し、原価・品質・安全の統一管理基盤を導入する。

※本宣言は企業自身がその責任において売上高１００億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

富山達観建設株式会社（総合建設業）

売上高100億円実現に向けた成長シナリオ

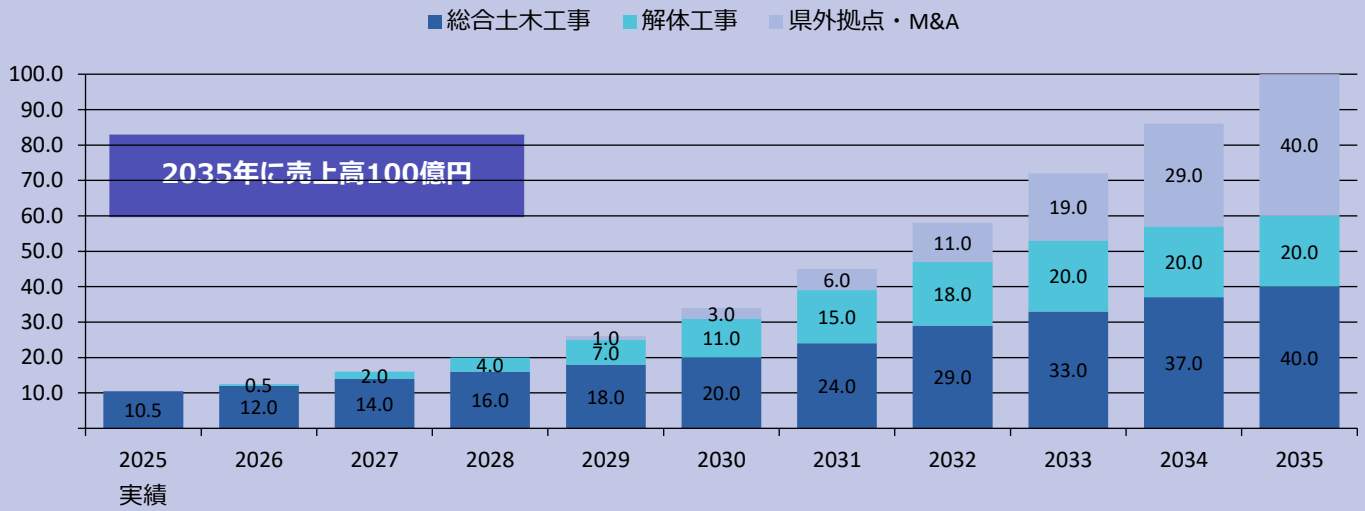
【STEP1】2026～2028年　本社移転と二本柱で県内を固める
2026年4月に解体工事業へ参入し、経験者の採用と重機投資を先行させて2028年に4億円規模へ育てる。2027年には本社を富山市へ移転し、県央・県西部の公共工事と民間造成工事を取り込む。土木で培った施工管理力を横展開し、解体後の外構・造成工事まで一貫受注する。

【STEP2】2029～2032年　県外へ拠点を広げる
2029年から富山市の本社を起点に石川・福井・岐阜・愛知へ営業拠点を順次開設する。ICT施工と施工管理DXで、拠点が増えても品質・原価・安全を本社で統制できる体制を先につくる。

【STEP3】2033～2035年　M&Aでグループ化する
石川・福井・岐阜・愛知を対象に、売上高10億円規模の土木・解体業者を複数社グループ化する。当社の施工管理DXと処遇制度を移植し、後継者不在企業の雇用と技術を地域に残す。

【共通基盤】人が集まり、育ち、残る会社であり続ける
社員が自らルールをつくる小集団運営と、30代で年収1,000万円を実現できる処遇体系を全社で継続する。2035年に従業員270名、一人当たり売上高3,700万円の水準を目指す。

売上高計画（億円）



2035年　売上高100億円の内訳

総合土木工事　40億円
富山県内の公共・民間土木工事

解体工事　20億円
2026年4月参入。解体～外構まで一貫

県外拠点・M&A　40億円
石川・福井・岐阜・愛知への展開

従業員270名／一人当たり売上高3,700万円
（現在：従業員33名／2025年10月期売上高10.5億円）